

「共に、互いに」

～ひとりでは戦えません！！～

ローマ 12:1～21

あなたは個人プレーが好きですか、それとも一緒に戦うのが好きですか。個人プレーは時には必要なこともあるでしょう。しかし、聖書の原則を見てみると、創造の日に神様は「人が、ひとりでいるのは良くない」(創2:18)と言われたのです。そして彼のパートナーを与えました。このローマ書には「互いに愛し合いなさい」(ローマ12:10)とあります。自らの存在価値を感じさせてくれ、助けて守ってくれ導いてくれるパートナーとして、自らを愛するが如くその隣人を愛するというのが聖書の根本にあるのです。

徳島の生まれの賀川豊彦という牧師がいます。彼は子どもの頃、父親の会社は倒産し両親は死に叔父さんの所へ養子となりますが、その家業も倒産します。彼は学校に行く事を反対されますが、教会の宣教師が彼の学費を助け神学校に行き牧師になります。彼は神戸のスラム街の子どもたちに何とか良いものを提供したいという思いで活動しました。彼はその思いを達成する為に仲間を創るのが上手でした。沢山のひととその思いを共有し、リーダー的存在として、その大切な土台から逸脱しないように進め、教え、国民一人一人がそれぞれ与えられた能力を引き出していく事を伝えていったのです。沢山の機関を作り、総理大臣補佐官としても活躍し、ノーベル平和賞にも4回もノミネートされました。クリスチャンがあなたの人生と夢に従って、そこで誰かの為に何かをすることが結果、このような将来に実を結び引き継ぐ大切な働きになるのです。

■ ①競争心 × ～only one～

聖書の中のイエス様のどの部分が好きかは皆違います。その部分がよく理解されていれば競争なんて概念はありません。しかし、イエス様の好きな部分を実行していくのに自分一人で出来ない事は沢山あるのです。多くの人は個人プレーで生きるように育てられました。小さい頃から学校で集団で同じテーマに沿って勉強しテストし、その中でランクを付けるのです。これは個性を見出す教育ではなく、集団の中で生き抜くことを教えているのですから、皆ライバルであり個人プレーになるのは当たり前です。比較、一番になること、負けた者は諦めて生きる・・・最終的には絶えず勝ち負けであり競争です。その中で自分が必要なのか必要でないのかを判断しているのです。神様はあなたを個性あるものとして創り、その能力を発揮する為に、一つ条件としてパートナーを与えたのです。それは夫婦だけとは限りません。あなたのパートナーは沢山います。目が二つあって重なりが見えるように、私たちも一人でやってはダメなのです。個人プレーで物事をやるとあなたの主観でやるからずれてしまいます。「聞くは一時の恥、聞かぬは永遠の恥」ということわざがあるように、私たちは聞いて、人から学んで、人を仲間にしなければなりません。神様があなたに与えた計画は一人では上手くいきません。私たちは競争心を持ったまま仲間を築くことは出来ないのです。「互いに器官なのです」(ローマ12:5)と書かれているように、私たちはそれぞれが違う器官であり、一人では出来ないようになっているのです。自分には不足があるという事、人に助けられる事の大切さを知るのが大切なのです。

■ ②ホスピタリティー～互いにもてなす～

「旅人をもてなしなさい」(ローマ12:13)と聖書は言っています。当時、宿屋というのは危険で大変な罪が行われていました。ですからクリスチャンが旅行に出掛けた時はクリスチャンの家にお世話になり、そこでよくしてもらいました。ホテルとホスピタリティーの語源は同じで、クリスチャンが旅人をもてなす所から出来たのがホテルなのです。神様の前にホスピタリティーを実現するのが教会であ

りあなたです。仲間が欲しいと思ったら、あなたがその人を癒してあげなければいけません。旅人をもてなすという概念は、自分が旅人じゃない時に人をもてなし、自分が旅人になった時はあなたがもてなされるのです。これが相互の愛です。共に・互いにがなくなったら個人になります。これを自己中心と言います。あなたがただで受けたのだからその人を癒してあげるという意味で流すのです。「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの御名によって、歩きなさい」(使徒3:6)とペテロは言いました。あなたにあるものをあげればよいのです、それは減る事はありません。私たちは人を助けて癒す為に存在しているのです。

■ ③最善 ～本質以外は寛容

クリスチャンは本質以外は寛容でなければいけません。その本質とは愛することです。本質の表れが十字架のキリストです。自らを犠牲にして十字架にかかり、相手の為にその罪を背負い、命をかけて身代わりになり、その人を癒す・・・それが愛なのです。あなたの十字架はもうイエス様が背負いました、今度は隣人の十字架を背負う為にあなたは今生きています。そしてその十字架をイエス様の元にかけていくのが仕事です。あなたの周りに問題を持っている人がいるでしょう、その人を嫌いかもしれませんが。しかし神様は、その人を愛してその人の痛みを私の元にかけてきなさい、あなたもそうだったじゃないか、何故その人がそんな状況になっているか理解しなさいと伝えているのです。「自分に関する限り、すべての人と平和を保ちなさい」(ローマ12:18)とされています。自分に関する限りという事をよく理解していれば、私たちはその人と平和を保つ事が出来ます。神様は真実な方ですから試練と共に脱出の道も備えてくださり、既にあなたはそこから脱出したのです。また新たな試練がありその脱出を乗り越える時、あなたは一人で乗り越えてはいけません。あなたの友や家族があなたの病と一緒に背負い、イエス様があなたの全てを背負って進んだのです。一人でやらず、「ふたりでも三人でも、わたしの名において集まる所には、わたしその中にいる」(マタイ18:20)と言われたのです。物理的なことではなく、あなたが隣人のことを愛して生きている時には神様は共にいるのです。そこには戦いがあるでしょう。しかし、「勇敢でありなさい。わたしはすでに世に勝ったのです」(ヨハネ16:33)とイエス様は言いました。あなたは勝つ方法を持っています、それはイエス様の愛に生きるということであり、いつもあなたの隣に人がいるという事です。振り向いた時に仲間がいるなら、あなたがしている事は本当だという事です。

最後に

あなたは紅一点の作品です。同じものは一つとしてありません。人と比べ一番を競うように育てられたあなたが比較から卒業する日です。私たちがすべき事は、その人を神様がどう創ったかを知る事です。だから私たちは本質以外で寛容でなければなりません。その人が本質を損なう行動を取っている時には、真剣に向き合うべきです。その人にしか出来ない事、その人でなければ救われない人がいるのです。同じようにあなたがあなたの姿に帰ってそこで生きることが大切です。イエス様があなたを取り戻す為にどれ程真剣だったかを感じ、隣人と共にイエス様の愛に生きましょう。

(要約者:西寄 芳栄)

(8月28日)